巴杏

三次地区医師会報

No.183

令和７年７月発行

かむいみさき
神威岬

北海道に行った際に積丹半島の神威岬に行きました。ニセコ積丹小樽国定公園の一部で、天気が良ければ「積丹ブルー」と言われる美しい海を眺めることができるそうですが、あいにくの曇り空で見ることができませんでした。

神威岬は諸説ありますが、かつて江戸後期まで女人禁制の地とされてきました。

この女人禁制の原因は、一説によると、奥州から蝦夷地へ逃れた源義経の伝説が言い伝えられてきているそうです。

箕岡　康明

目　　次

写　　真…… 箕岡　康明

巻頭言

「令和のコメ騒動」…… 三次地区医師会　副会長　岡崎　哲和 … 2

特別寄稿

市立三次中央病院だより

……市立三次中央病院　病院長　立本　直邦 … 4

学術論文

アミロイド PET によるアルツハイマー病の診断とレカネマブによる治療

…… 安佐市民病院　脳神経内科　主任部長　山下　拓史 … 6

医師会長だより

「三次地区医師会の運営について」

…… 三次地区医師会　会長　中西　敏夫 … 8

ブロックだより

医療センターだより…… 三次地区医療センター　病院長　安信　祐治 … 10

随筆

トランプ後の世界…風車（かざぐるま）の計…… 久行　敦士 … 12

昨今の医療行政について…… 須澤　利文 … 14

私の主張

こども診療所３年目を迎えて

～「モラトリアム小児科勤務医」のその後～

…… 三次市国保みよしこども診療所　所長　則松　知章 … 15

ファックス伝言板

禁煙推進・受動喫煙防止　活動報告

…… 禁煙推進委員　安藤　　仁 … 18

会員紹介

…… 市立三次中央病院　須澤　　仁／豊福　　守／丸谷　凌平 … 23

伊藤　大起／森本　啓介／佐川　純司

丸井　夏実／長谷川　秋／神明　俊輔

亀岡　　翼／石田　駿斗／鈴木可南子

新見　雅志／相坂　悠斗／上野　佑太

加藤　真恵／葉畑　香澄

…… 子鹿医療療育センター　佐伯　俊成 … 35

…… 子鹿医療療育センター　大森　啓充 … 36

…… 津島医院　津島　　健 … 37

…… 三次市国保作木診療所　石田　直也 … 37

会員異動…… 事　務　局 … 38

事業所現況報告…… 事　務　局 … 40

医師会日誌…… 事　務　局 … 41

編集後記…… 須澤　利文 … 43

写　　真…… 巴杏編集委員会

巻　頭　言

「令和のコメ騒動」

三次地区医師会　副会長　岡　崎　哲　和

日中は汗ばむ陽気となってまいりましたが、日によっては肌寒く感じることもあります。風邪をひいて受診される患者さんも少なくはなく、体調管理も難しくなっています。

まるで、このご時世のような日々が続いています。

昨年の８月から始まった米の価格上昇「令和のコメ騒動」は収まる様子はなく、備蓄米の放出が始まった後も米の価格高騰は続いている状況です。

当初は、メディアが新規参入業者による買いだめが原因と報じ、多くの国民がこれを信じていました。しかし、ひとつの原因として2023年の米需要の急回復と米の生産量が減った事が言われています。

2023年からの米需要の回復は、2022年に起きたロシアによるウクライナ侵攻と円安により輸入小麦が高騰した一方で、米価が低迷したため、割高となったパンや麺類から消費者の需要がシフトしたと考えられています。

その他､｢コメ不足再燃｣との報道を受けて、家庭内ストックの増加も無視できない状況となっています。

現在は、コメ価格の高騰を抑える材料（小麦価格の下落、輸入米の価格競争力の低下、外国産米の品質向上など）が次々に出てきているため、米価水準は低くなるとの見方がされています。

むしろ心配されているのは、長期的なコメの供給体制だと言われています。政府が2018年に減反政策を廃止しましたが、以降、農家の高齢化が進み作付面積が縮小しています。また単位面積当たりの収量が増加していますが､コメの生産量は年々減少しています。

生産コストの一層の削減に加え、地球温暖化対策や、高齢化による耕作放棄地の増加などへの対策を抜きにして、食糧安全保障も語れない状況です。農業政策を根本から変えることができなければ、自然災害が予期せずに起きるものである以上、今後もこうした「コメ騒動」が起きることを覚悟しなければいけないと言われています。

今回の「令和のコメ騒動」の記事を読んでいると、今の医療が置かれている状況とよく似ていて、「対岸の火事」ではなく、医療政策を予見しているように思われました。

そこで、今回は医療の課題についても一緒に考えてみました。「医療の課題」を考えるにあたり、AIを活用してみました。マイク

ロソフトのインターネット検索をかけると簡単に「日本の医療の問題点」を、①高齢化社会：高齢者の増加により医療需要が急増し、医療機関がひっ迫している、②医療従事者の不足：特に若年層の比率が低下、③医療費の高騰：高齢者が多く、医療費が増大し、国家財政に大きな負担をかけている、④地域格差：特定の地域では医療サービスが不足している、⑤病院・医院の経営難：多くの医療機関が赤字経営に苦しんでいる、と五つ挙げてくれました。これは日本の農業の問題と非常によく似ているものでした。

これらの問題を解決する一つの方法として「AI の活用」が言われています。特に「医療の効率化・働き方改革への対応」には大きく役立つと言われています。しかし、素直に受け入れられない事も事実で、私もそう思っていました。しかし、たまたま「生成 AI を基礎から学ぼう」と題したセミナーを聞く機会があり参加してみました。

細かい内容を伝えることは上手くできませんが、ポイントだけを言うと「書く・描く・読む・聞く・まとめる」を楽にして、業務時間を短縮することができることです。言い替えれば、無駄な作業・手順をなくしたり減らしたりして、人間は人間にしかできない事をやる、人間がやるとしても能力が最大限に発揮されること（有資格者でなければできない事以外は、そうでない人や機械にやってもらう）が重要となります。

もっと簡単には、「AI を使いこなす人間になる」ことを言われていました。ここらからは避けては通れない事なので、皆さまと一緒に医療の問題解決に向かって共に頑張っていきたいと思います。

実際は、今の医療の厳しい状況下で、「落ち込み、投げやりな気持ち」になっていましたが、ふと立ち寄った本屋で、子供向けの「立ち直る力を育てる本」を見つけました。大変なことがあって傷ついたりしても、しなやかに元にもどる心の力が「立ち直り力」と言われています。子供たちも、チャレンジしながらパワーアップしています。私たちもあきらめることなく、行動を続けていくことが大切と再認識しました。

春から夏へと季節が変わる時期です。体調を崩されませぬようにお祈り申し上げます。

特別寄稿

市立三次中央病院だより

市立三次中央病院　病院長　立本直邦（たつもとなおくに）

令和７(2025)年４月１日付で　第９代　市立三次中央病院　病院長を拝命いたしました立本直邦（たつもとなおくに）　です。このたび、巴杏内に『市立三次中央病院だより』を掲載させていただけるにあたり、就任の挨拶もさせていただける機会をいただきました。まず皆さまには日頃から格別のご高配ご配慮を賜り、厚く御礼申しあげます。

私は、平成11(1999)年４月、39歳の時に、私の広島大学医学部準硬式野球部の大先輩でもある故末永健二先生のもと、外科診療医として当院に赴任させていただきました。その後、外科医長、診療部長、副院長を経験させていただき、26年目の春を迎えるにあたり、たいへんな重責を担わせていただくことになりました。

すでに多くの方はご周知のことと思いますが、巴杏をお読みになる若い方もいらっしゃいますので、敢えてお伝えさせて下さい。当院は、昭和27(1952)年６月、当時の双三郡の17町村により設立された双三中央病院組合によって開設され、その後、昭和44(1969)年５月に全面改築（建て替え）、更には、平成６(1994)年９月に現在地に新築移転を行い、現在に至っております。病院名称も、開設時は『双三中央病院』、新築移転時から『公立三次中央病院』、そして、平成16(2004)年の平成の市町村合併時から現在の『市立三次中央病院』と３度の変遷を経ております。診療科・病床数は、開設時；６科・32床の診療所とあまり変わらない規模の病院から、改築時；12科・275床、新築移転時；18科・350床、そして現在は、標榜診療科；30科、医師数；88名、非常勤職員を含め総職員数；578名（看護師；302名）に及んでいます。県北唯一の総合病院、『県北の砦』として、１次～2.5次救急を中心に対応すべく、まさに365日、24時間の体制で一丸となって診療に当たっております。まさに、地域に根ざした、地域密着型の病院、地域の皆さまにとっては“我が町の病院”です。

令和２(2020)年からのコロナ禍に伴う人員（特に看護師）不足に伴い、１病棟（包括ケア病棟）の閉鎖を余儀なくされておりますが、そこに外来・化学療法センターを拡充移転、また外来・内視鏡センターを改修拡充すること等々で、限られた医療資源の有効活用を図って、何とか対応いたしております。

三次市長の福岡誠志様からも、就任に際してお願いされました、

①地域の皆さまに安心・安全な医療の提供を継続すること
②健全な病院運営を継続すること
③病院建て替え計画の遂行
が今後の病院運営にあたっての近々の最低限の責務と考えております。

しかし、コロナ－バブル ?? 明け、多くの公的病院が赤字経営に陥る中、当院もご多分に漏れず、いたって厳しい状態ですので、すでに報道されておりますように、病院建て替え計画は一時立ち止まりを余儀なくされております。（中止となった訳ではありません。）ただ、芸備線が特急化でもされない限り、当院が急性期～地域完結型病院であり続けないといけないと思いますし、また県北の地域医療を守り、さらには若い優秀な医師を育成していくためにも、できるだけ早い病院建て替えが望まれると個人的には思っております。働きがいのある魅力的な病院でなければ、医師の派遣は叶いませんし、良い医師も来てくれません。（来年度の診療報酬改定に期待するしかないのでしょうか ??…）

さて、今春、市立三次中央病院は、医師24名、看護師20名、検査技師１名、栄養士１名、社会福祉士１名を新たに迎えました。初期臨床研修医も４名受け入れ、２年目と合わせて計７名となっております。乳腺外科が１名増員となりましたが、消化器外科が２名減員となっております。時間外に呼び出される診療科が軒並み不人気になっているあおりを受けております。『直美（ちょくび）』（＝臨床研修期間を終了後、直ぐ／直接に美容クリニック／美容医療機関に就職すること）なる言葉が流行語になりそうな寂しいご時世と思うのは私だけでしょうか？その他の診療科については増減員はなく、引き続き派遣をいただくことができました。喜ばしい限りです。また、新たに丸山（まるやま）　聡（さとし）先生（泌尿器科）に副院長、原田（はらだ）宏海（ひろみ）先生（放射線診断科）に診療技術部長をお願いいたしました。

病院の基本理念である『私たちは、地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します。』にいつも立ち返って医療に邁進するようにいたします。

私のライフワークでもあります、病診連携－病病連携、地域の医療関係の皆さまとの密な関係の構築・強化はこれからも継続して参ります。ご協力ご支援を改めてお願いして市立三次中央病院だよりとさせていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

（令和７(2025)年５月吉日）

学　術　論　文

アミロイドPETによる アルツハイマー病の診断と レカネマブによる治療

広島市北部認知症疾患医療センター　センター長
広島市立北部医療センター安佐市民病院　脳神経内科　主任部長
山　下　拓　史

2022年の国民生活基礎調査では、認知症は日本人の要介護原因の第１位（16.6%）、寝たきり原因の第２位（23.1%）である。WHOの国際疾病分類ICD-11によると、認知症は、日常生活活動の自立を有意に妨げる認知機能の低下がみられる後天的な脳の病気（脳症候群）と定義されている。一方、認知症ではないが正常でもなくその中間の状態で、認知症の症状はみられるが何とか日常生活活動は自立している軽度認知障害（MCI）が認知症の前段階として最近注目されている。

2023年10月に当院は広島市北部認知症疾患医療センターに指定された。広島県で11番目、広島市で３番目となる認知症疾患医療センターであるが、広島市西部認知症疾患医療センター（こころホスピタル草津）と広島市東部認知症疾患医療センター（瀬野川病院）は精神科病院であるのに対し、広島市北部認知症疾患医療センターは地域救命救急センターおよびがん診療連携拠点病院の指定を受けた総合病院である。

当院は肺炎、腹痛、心不全、脳卒中、がん、痙攣、骨折、感染症、COVID-19など様々な身体合併症を発症した認知症高齢者が数多く入院しており、その中には身体的、環境的、心理・社会的な要因により認知症の行動・心理症状（BPSD）が悪化する患者が多い。認知症看護認定看護師、精神科医師、脳神経内科医師、総合診療科医師、薬剤師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーなどからなる認知症・せん妄対策チームは全病棟をラウンドし、不穏、焦燥、興奮、妄想、幻覚、不眠などのBPSDへの対応を行っている。

当院脳神経内科は、認知症の早期発見、早期対応を目指して「もの忘れ外来」を行っている。かかりつけ医から紹介された年間約300名の新患患者を診療しており、問診、身体診察、神経診察、神経心理検査、血液検査、画像検査などを行い、認知症の診断と鑑別診断を行っている。当院ではアミロイドPETを行っており、アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬レカネマブによる治療を希望し、適用基準を満たす患者にはアミロイドPET検査を行う。2025年２月時点で、アミロイドPET陽性の25名にレカネマブによる治療を行っている。

広島市８区のうち認知症患者数が最も多いのは安佐南区、次に多いのは安佐北区で、両区合わせた患者数は約１万２千人と推定される。こういった状況を踏まえ、安佐南区と安

佐北区の医師会である安佐医師会では、当院を含め19専門医療機関が参加した安佐医師会認知症地域連携パスを運用しており、県共通の認知症ケアパス「ひろしまオレンジパスポート」を活用した在宅医療・介護連携に取り組んでいる。アルツハイマー病によるMCIの患者もレカネマブによる治療の対象であり、アルツハイマー病をMCIの段階で早期発見するため、地域包括支援センター向けの研修会や市民講座を行っている。MCIと認知症患者は増え続けると予想されており、地域連携は今後益々必要になると考えられる。

医師会長だより

三次地区医師会の運営について

三次地区医師会　会長　中　西　敏　夫

我が国は長く続いたデフレからインフレに振れ、賃金・物価の上昇は現実のものとなってきました。経済界では、人材不足やトランプ関税に端を発し、我が国の基幹産業である自動車関連企業は先行き不透明な混乱が続いています。日常生活では、主食であるコメ価格の高騰は政府が備蓄米を放出したにもかかわらず、一向に価格に反映されず、江藤大臣の失言もあり、発信力のある小泉氏が大臣就任となったようです。一方医療界では、人件費・諸物価高騰に診療報酬が反映されず、令和６年度は多くの病院が赤字決算となりました。

国の政策は内閣府で基本方針が決定されています。政策運営の基本方向はやはり構造改革です。郵政民営化を掲げ小泉政権が誕生したのは記憶に新しいところです。選挙制度が中選挙区制から小選挙区制に変わり、選挙に大きな影響を与えた支持基盤をもつ族議員は少なくなってきています。農政族の代表であった江藤拓大臣は農水省とどのような関係だったのか興味のあるところです。選挙基盤としてのＪＡは、農業従事者の数より一般の会員のほうが多い現状です。医療界はどうでしょう。医師の代表団体である日本医師会は、勤務医会員の会費減免措置でやっと入会率50％を超える状況です。政策決定にかかわる厚生労働省と日本医師会の関係は良好のようですが、医療費削減を掲げる財務省をはじめ、診療報酬制度における中医協の場では支払基金側からの攻勢に防戦一方の感も否めません。来る参議院選挙にどのくらいの得票ができるか執行部は力を入れています。

三次地区医師会事業は、大きな課題を抱えています。医療センターは看護職員補充がかなわず３階病棟を閉鎖したまま運営を続けていること、老健あさぎりは看護師他従業員の確保はできましたが、入所者数の減少は想定外でした。その結果、令和６年度は、三次地区医療センター、老健あさぎりは赤字決算となりました。三次地区医師会にとって医療センター、あさぎりの収支に占める割合は極めて重要です。柱となる両部門の赤字が続けば内部留保金が枯渇して事業の縮小、撤退が現実味を帯びてきます。

前回の理事会議事録でお知らせしていますが、令和７年度の事業計画に医療センターの３階病棟の運用と老健あさぎりの今後の在り方については、安信病院長を中心に委員会を

立ち上げ、来年６月の総会をめどに検討して頂いております。また、たたき台ができた時点で議論して頂ければと考えています。

少し明るい話題もあります。県医師会の事業報告にも記載されていますが「ふるさと枠」の医師配置について、広島県医療審議会で三次地区医療センターと尾道医師会立病院に配置されることが決まりました。早速４月からリハビリの三上教授のご配慮で新任の医師が赴任し、また教授自ら月一度病院での診療や指導が行われています。医療センターはこれで目指す姿としてリハビリに力を入れていくということが職員一同にも示せており、モチベーションが上がっていくことを期待しています。

『巴杏』が発行される時期には、三次地区医師会の総会も終わって新体制になっていますが、先に挙げた諸問題解決に向け、また備北圏域の医療提供体制の確保のために、もう少し会長の責務を果たしていきたいと思っています。

医師会の運営等に関しては２か月に１回の理事会開催とし、理事の先生方にはなるべく負担のかからないよう、また理事会での議事録を介して各事業所の運営等についても会員の先生方にお知らせしています。この運用はこれまで通り続けていきたいと考えています。県医師会と市郡地区医師会の WEB 会議もコロナ感染が落ち着いた現在、２か月に１回の開催となっています。しかし医師会の運営に関しては様々な問題も起こっていますので、会長・副会長・専務理事と医師会事務局で第２・第４水曜日を原則として執行部会を開き適宜処理しております。何か問題がございましたら遠慮なく事務局に申し付け下さい。

最後に、広島県の新病院構想についてお知らせしておきます。４月 22 日に第２回高度医療・人材育成拠点推進会議が開催されました。新病院の役割は高度急性期機能、医療人材育成機能、広島県の医療提供体制を支える機能です。

新病院の運営主体として、地方独立行政法人広島県立病院機構が 2025 年４月１日に設立されました。JR 広島病院は「県立二葉の里病院」に改称され、県立広島病院、県立安芸津病院の三病院で構成されます。機構の理事長は粟井和夫前広島大学学部長が就任されました。2030 年の開院を目指し計画が進められていますが、建設費の高騰で設計を含めた見直し作業が進められているようです。市立三次中央病院も赤字決算、建設費の高騰で新病院改築の計画が中断されています。県とともに国に対策等をお願いしています。

新病院は、広島大学等と連携した中山間地域の医療機関に対する医療人材の派遣（循環）の仕組みづくりを目指しています。ただ、中山間地域の医療機関は看護師不足が深刻で、医師以外の医療従事者の配置調整ができればと希望しています。

三次地区医療センター便り

三次地区医療センター　病院長　安　信　祐　治

会員の先生におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年度は当センターにも看護師不足の波が押し寄せ、療養病棟の休床を余儀なく決断致しました。以降､｢覚悟と挑戦｣を掲げ、病棟改変に着手し、11 月 1 日から新たな体制でこれまで通りの地域に根差した医療を継続して参りました。スタッフの協力は勿論ですが、会員の先生方のご理解とお力添えもあり、11 月から運営状況も改善の兆しが見えて参りました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

今年度も、当センターの強みである心不全とリハビリに注力しながらも、かかりつけ医の先生方からご紹介いただく患者様の外来検査 / 診療、入院治療に遅滞なく対応できる体制を維持していきます。また、関連する事業をさらに展開させることで地域医療に貢献し、もって経営基盤を再建して参ります。

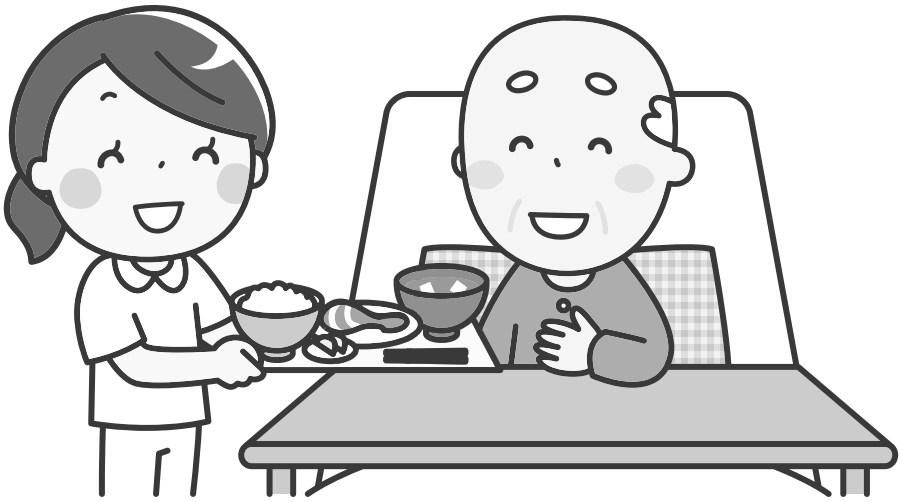
具体的には､高齢者救急入院における迅速、適切な治療と並行して、フレイル予防 / 在宅復帰に向けた体力改善に取り組みます。入院時の病態の多くは食事摂取量が低下しており、まずは「食べる」事を担保しなければ効率的 / 実効的なリハビリに進めません。これまでは摂食嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士、管理栄養士による多職種が関わっていましたが、昨年度から歯科衛生士 1 名を採用し、口腔環境の評価 / 介入の取り組みも開始しました｡同時に歯科医師会とも連携を取り、新たな医科歯科連携を構築し、これまで以上に歯科医師の往診が依頼できる体制づくりに取り組んでいます。これらを踏まえて、「早期からの積極的離床」にも取り組み、在宅復帰率向上を目指しています。

さらに、今年度から広島大学リハビリテーション科のご協力の下、念願のリハビリテーション医（専攻医）を採用することができました。県北唯一の回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、リハビリテーションの質の担保に努めて参りましたが、さらに進歩する環境が整いました。また、適応のある患者様に積極的に Re-Gait を駆使して歩行獲得を確実に達成して参ります。

続いて、令和 7 年度医師の異動を報告致します。広島大学病院リハビリテーション科より派遣頂いておりました卜部真利子（R4）先生が広島大学病院に帰られ、代わりに常勤医として品末典也（R4）先生が来られました。また、月 1 回広島大学病院リハビリテー

ション科教授の三上幸夫先生にも回診をお願いしております。消化器内科におきましては重信修宇也（H30）先生、豊島元（H27）先生、中村岳夫（H27）先生が広島大学病院に帰られ、代わりに網岡祐生（H31）先生、長尾暁憲（R2）先生、橋本晃（H30）先生が来られました。市立三次中央病院から派遣頂いている吾郷里華先生、七尾裕太先生には引き続きお世話になります。また、毎週水曜日の当直業務も市立三次中央病院の先生に引き続きご協力いただけることとなりました。この場をお借りして、当直業務に協力いただく先生方にお礼申し上げます。

医療環境は引き続き厳しい状況下にありますが、職員一同これからも微力ながら地域医療に貢献できるように頑張って参りますので、今後とも引き続きのご指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。



随筆

トランプ後の世界…
風車（かざぐるま）の計

久　行　敦　士

２期目のドナルド・トランプ大統領に世界が振り回されている。

関税で脅し動揺を誘発し、相手国が接触してきたところで、交渉で条件を落とし込む。自国の優位性を傘にきた高圧的な手法である。西側諸国の同盟が揺らぎ、専制国家や新興国が台頭する混乱の時代が訪れているのかもしれない。

そもそも国連は？

国連が空気のようになって久しい。そもそも常任理事国に拒否権があるのだから、常任理事国が横暴になれば国連としてはそれを制止することは不可能である。はなから制度が破綻している。所詮大国の意向次第なのだから、そんなものしかできないとも言える。

大戦が起きる→国連のようなものができる→戦勝国が発展する→新興国が発展する→歪みが生じる→ナチスのようなものができる→繰り返し

人類世界はこの程度が限度なのか。

対策①

宇宙人が大挙して押し寄せてくれれば、一致団結するのになと思うことがある。

対策②

こちらから宇宙に進出する。アポロ 11 号以来、56 年間人類は月より遠くに行けていない。遠くに行かなくてもいいのだが、ガンダムの世界のように宇宙開発を行い、スペースコロニーに移住できないのか。必要ならば世界に 12520 発ある無駄に極めて多すぎる核弾頭でもバラしてエネルギー源にできないか。（核弾頭は 500 発でもあれば十分では）

そうすれば解決する領土問題もあるだろうし、そもそも弾道ミサイルによる相互確証破壊が無効化する。（地球重力に依存しているため）

まあこの辺りまでは短期的において空想レベルの案だが、構造的には外世界によるパラダイムの破壊である。

近代の国際関係のパラダイムはゲーム理論的に見ても固定しており、支配及び破壊がなくなることは残念ながらあり得ない。

①自分が短絡的に得をしたい
②自分だけでは社会を変えられない

パラダイムを変えずにバランスにより安全・利益を保とうとするのが同盟であり、ある程度有効ではある。しかし大国の横暴を制止することができないのはウクライナ戦争でも明らかである。大国は潤沢な資源と軍事力を備えており、小国の同盟ではそのパワーを覆すことが困難だからである。

ここから私が展開したいことは二つ。

①地域論：日本はこのようなトランプ後の世界でどのように振る舞うべきか
②総論：上記パラダイムを変えることができるのか

今回は話の流れ、わかりやすさから①を展開し、マニアックになる②は次回のお楽しみとしたい。

日本にとって、アメリカの迷走は同盟に不安をもたらしている。

トランプ大統領の態度からは大幅な負担を強いられることが予想される割に、いざとなった時に期待を反故にされかねない印象を受ける。アメリカとの同盟に盲目的に頼り切ることは困難になってきているのではないか。

かといって大国ロシアや中国と同盟を結び直すのか…社会体質的に拒否感を覚える。これまでの周辺国の推移を見ると、完全な支配構造が隅々まで組み込まれ、静かにだが完全に侵略されかねない。

そんな荒波に漂うようにも見える日本を、その周辺国とともに楽観的に見ていると…

私には風車（かざぐるま）が見えてきたのだ。

風車はご存知だと思うが、１枚の紙を切り込みで４ブロックに分け、端を中心にピンのようなもので留めることで風のエネルギーを回転エネルギーに変換することができる。

日本は横暴でもある大国に囲まれながら、それらに対してこのピンのような役割を果たせないだろうか。

日本がアメリカ、ロシア、中国、環太平洋諸国、インドなどと駆け引きをしつつ、それらの価値を最大化しリスクを相殺することで風車のような社会活動を引き出すのである。

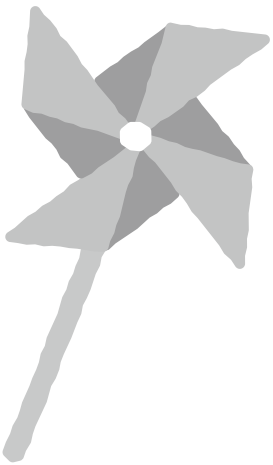
そんな高度なことができるか！と思われるかもしれない。私もそう思うが、そうでなくて１ブロックとの同盟のみを選択すればジリ貧が待っているのである。

私はこのプランを「風車の計」と名付けた。

三国志の「天下三分の計」に匹敵するのではと思われる。

私は諸葛亮孔明と肩を並べたか？！

（続きもお楽しみに）



随筆

昨今の医療行政について

すざわ小児科　須　澤　利　文

コンピューターなくして世の中は回らなくなっていることは自分なりに理解しているつもりです。デジタル化は時代の流れ、もう誰にも止められません。そんな中、自分たちの置かれている医療界では、カルテの電子化、DX 事業の推進、電子処方箋、マイナ保険証など急速に進められています。つい最近まで開業診療所の約 50％が紙カルテだったことを思うと、2030 年までにすべて電子カルテにするという目標はいかにも唐突で強引な感じがします。マイナ保険証も将来の個人情報漏洩の恐れや犯罪多発化につながらないかなど不安は尽きません。そしてそこに時代の流れについていけなくなった自分がいます。

医療費削減の一環として薬価価格を毎年のように下げています。その影響で製薬会社は薬価の安い薬の製造を止めたり、常用薬剤の分包化を中止したり、院内処方の当院としては薬の調剤に今まで以上に時間と手間が掛かり大変迷惑しています。

未だに何も解決されない消費税問題（医薬品や医療機器に掛かる消費税などは最終負担者になっている）を含め不安は募るばかりです。

急性呼吸器感染症（ARI）が５類になったことは皆さんご存じのことと思います。その関係で定点の再構築を行うことになったらしく、当院にも ARI 病原体定点への打診がありました。週初めの２日間で 10 検体を毎週提出がノルマでした。今まで検体提出には協力的な方だったと自負していましたが、今回の決定には驚きました。全く現場のことが分かってない人が考えそうなことです。と言うのも、子どもの鼻やのどからぬぐい液の検体を採取する旨の同意を取る事にかなりの神経を使っていましたので、即座に辞退の返事をし、小児科定点も止めることになりました。結局のところ、僕の考えですが、最近の医療行政は現場を知らない人が牛耳っているという結論に達しました。

話は変わりますが、世の中が全てコンピューターや AI で動くようになって、それらに支配されるようになったらどんな世界になるんだろう？なんて考えたことありますか？

以上、思いついたままに書き上げましたが、自分の偏見がかなり入った文章になったと思います。乱筆乱文失礼しました。

私の主張

こども診療所３年目を迎えて ～「モラトリアム小児科勤務医」のその後～

三次市国民健康保険
みよしこども診療所　所長
則松　知章

令和５年５月９日から診療を開始いたしました「三次市国民健康保険みよしこども診療所」所長を務めています則松知章です。『巴杏』への寄稿は今回２回目で、前回（令和元年 11 月発行）は前職である市立三次中央病院小児科在籍中で、「モラトリアム小児科勤務医として」という題名の自己紹介文を寄稿させていただきました。広島市のサラリーマン家庭出身から「なんとなく」医学部に進学し、2005 年３月広島大学卒業。呉医療センターでの初期研修後に、またまた「なんとなく」小児科を選択し、その後は医局人事で呉・尾道・三次と広島市以外での勤務が続く中、40 歳を迎え、このまま勤務医を続けていくか、はたまた開業なども視野に入れて今後の人生設計を考えている、という内容でした。

今回は、こども診療所開設３年目を迎え、近況報告をとのご依頼をいただきました。私は緊張すると吃音が出てしまい、人前でお話しすることが正直得意ではありません。医師会の公式行事等でも隅の方で静かに過ごすことが多いので、今回は文章で自己紹介・近況報告をさせていただく良い機会をいただいたと思い、寄稿させていただきます。

「モラトリアム小児科勤務医」であった私のその後ですが、数年間の勤務で愛着を抱いた三次市での開業を決意し、大手コンサルに開業に向けての支援を依頼し、数年後に完成予定の開業案に乗りました。私が地域枠の医師ではないにも関わらず、広島市から離れた地域で当直要員として長年頑張った功績が認められたのか（？）、医局からも速やかに開業許可を頂きました。また、当時は梶山小児科が閉院した直後でもあり、将来的な小児医療の継続を政策課題としていた三次市からも支援を申し出ていただくなど、順調に進んでいました。

しかし、社会はコロナ禍の非常事態となりました。私が開業を予定していた商業施設にもテナントが集まらず、初期の計画はいつの間にか自然消滅しました。その後は候補地が二転三転しながら、どの計画も一向に進む気配がありませんでした。事態が硬直化し、身動きが取れない状況に限界を感じた私は、三次市での自力開業計画を断念し、広島市内へ転職することを決断しました。

日頃からお世話になっていた中西先生に計画断念をお伝えしたところ、当時医師会長をされていた鳴戸先生や三次市とお話してくださり、急きょ公設公営による小児科診療所を整備する方向での協議が開始されました。公設公営の小児科診療所は全国的にも珍しく、心配される先生もおられましたが、中西先生や永澤先生のご尽力もあり、最終的にご理解いただくことができました。令和４年９月の

市議会において関係予算の承認を得たのち、令和５年５月、三次市福祉保健センター内に誕生した「みよしこども診療所」は、開所から丸２年となりました。

慌ただしさのなか開所した１年目は、私にとって様々な不安とストレスを抱えた船出となりました。中央病院では診療に専念していましたので、診療所長としてマネジメントするのは初めての経験です。公立診療所であるが故、ボールペン１本の購入ですら一存決定できない私の裁量権の中で、もともとリーダーシップの弱い私がどのようにスタッフをまとめていけばよいのか悩みました。スタッフ採用や面接の権限を持たない私は、スタッフから見ると三次市から雇用されている「同期入社の同僚」に見えているのではないか。加えて昨今の「ハラスメント」に過敏な風潮の中、スタッフとどうコミュニケーションを取ればよいのか。スタッフと直接雇用関係にないことの難しさ、限界のようなものを感じていました。試行錯誤しながらの２年を経て、現在は日々、こども診療所らしい円滑（と私が考えている）な状態が整ってきて、現在に至っています。

みよしこども診療所（入口）

一方、診療上はこの２年間は大きなトラブルなく経過したと考えています。私は当診療所の開設意義を公的な社会インフラの一部であると考えており､採算性を意識しながらも、利用者の利便性を重視した運営を心がけています。特に、

○感染症患者との接触に気を付けながら、比較的広い時間帯で予防接種を実施
○状態が安定している患者には、長期処方を実施
○中央病院小児科との役割分担を意識し、専門性や受付時間に合わせて来院前の利用者への案内や、適切なタイミングで患者紹介を実施

等を意識して運営しています。

課題としては、１日 30 人程度の患者数しか来院･診察できていない点が挙げられます。福祉保健センター内に整備したことで目立たない立地となり、まだまだ認知が広がっていないことや、前述の長期処方、また門前薬局がないため利便性が悪いなどが理由と考えていますが、一番の理由はやはり須澤先生の存在の大きさではないでしょうか。

日々多くの小児患者を診療されている須澤先生のように、信頼される小児科診療所となるよう、引き続き三次市の政策のもと、まずは安定した運営を心がけていこうと、気持ちを新たにしています。

最後になりましたが、地域の子どもたちとご家族の健康の拠りどころとして、三次市の地域医療を担う診療所となれるよう、スタッフとともに研鑽を積んでまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

診療所待合室

ファックス伝言板

禁煙推進・受動喫煙防止活動報告 2025.2.～2025.5.

禁煙推進委員
元あんどう眼科院長
安藤　仁

5月31日は　WHO世界禁煙デー。

「Unmasking the Appeal：Exposing Industry Tactics on Tobacco and Nicotine Products.」

タバコおよびニコチン業界が有害な製品を魅力的に見せるために使用している戦術を明らかにする。

2025年日本の禁煙週間のテーマ　厚労省

「受動喫煙のない社会を目指して
～私たちができることをみんなで考えよう～」

去年に引き続き栗山監督から禁煙デーにカツを頂けるような感じのポスターです。

ＷＨＯのテーマと厚生労働省のテーマとの乖離がすさまじいですね。タバコ産業界の悪事を砕こうとするのと、わたしたちのできることをみんなで考えようとでは、**向かうベクトルが全く違います**。役所の担当者の方もこんなことをテーマにしたままで良いものかと、悩んでいるはず、と、思います。

このポスターを例年通り100部頼んでいたのですが、5月26日現在配られてきませんでした。配送の手違いで、遅れてしまいましたが、

世界禁煙デーのポスターを、6月1日から医師会員の皆様や小中高校、県立大学、看護学校などに掲示をお願いし配布いたしました。

業界はすさまじいお金を持っています。未来永劫タバコやニコチンを売り続けようと戦略を練り続けています。紙タバコは売らなくなっても加熱式タバコなどで多くの利益を出そうとしています。人の体に良くなる製品開発をしてくれればよいのに。日本たばこ産業が傘下の製薬会社「鳥居薬品」や医薬品事業をあわせておよそ1,600億円で塩野義製薬に売却すると5月7日に発表がありました。それにしても、タバコ産業が、健康のための医薬品を製造することも納得がいきませんでした。1987年以来の医薬品事業からの撤退。食料品部門もお持ちで、冷凍うどんで有名な会社の名前を変えてお持ちのままでした。売り上げの5％。ひょっとするとタバコ・ニコチンだけの会社になるのかも知れません。2024年度売上高約3兆1,600億円、営業利益6,880億円。毎年約2兆2,000億円を

タバコ税や消費税で国庫に納めています。税金を納めた後の約１兆円の68％が営業利益と言うのも凄いですね。税引き後の純利益4,670億円、儲けています。海外での売り上げが76％で、海外事業を拡大。世界でタバコのシェアを見ると、中国煙草33％、フィリップモリス3.94％、ブリティッシュアメリカ3.9％、日本たばこ2.21％で、ＪＴが伸びています。世界人口の22.3％が喫煙者。年間800万人以上の人を死亡させている。良いのだろうか！悪いですよね。

世界禁煙デーの５月31日から６月６日は禁煙週間です。会員皆様から積極的に禁煙の取り組みをお願いいたします。全国各医師会で建物をライトアップして禁煙や受動喫煙対策を訴えます。シンボルカラーは、イエローグリーンです。長崎県佐世保市の市民のアイデアで日本全国に広がっています。東京では東京スカイツリーなど。

ⓒ広島市

広島県医師会と広島市の協働でエディオンピースウイング広島を、初めてライトアップする。その目的は以下の通りです。

日本では毎年約19万人が喫煙に関連する病気で亡くなっていると言われている。喫煙率は以前に比べ減少傾向にあるものの、近年、特に**若年層においては、加熱式タバコ等について、健康被害が少ないとの誤解から、その使用者が増加傾向にあるため、禁煙に関する啓発が必要である。**また、喫煙者が吸っている煙だけではなく、タバコから立ち昇る煙や喫煙者が吐き出す煙にも、ニコチンなど多くの有害物質が含まれているため、望まない受動喫煙をなくすことが求められている。**さらには、20歳未満の者においては、喫煙および受動喫煙は健康に与える影響が大きく、将来の喫煙　を防止していくことも重要であることを踏まえ、禁煙や受動喫煙対策の大切さについて関心をもっていただくことを目的とする。**

５月31日は土曜日で試合があり６月１日から。広島県医師会もライトアップ。三次市では、恒例の三次ワイナリーのライトアップ。市街地ならサングリーンかフレスポにしてもらえたら良いのですが、どうでしょうか！

５月12日（月）には、第20回日本禁煙学会学術総会実行委員会（第２回）が、県医師会館で行われました。2026年10月24日（土）25日（日）に県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会で開催。メインテーマと、参加者の懇親会会場を決定。具体的に動き出します。

市立三次中央病院の建て替え工事はいかに？

前回182号で、計画を2029年度完成で280床にして約250億円にしても、物価高、資材や建設労働者の不足で困難ではないかと、１月中旬に原稿を書き指摘させてもらいましたが、中断と？

現病院の建設から30年がたち医師数も約40名から約90名に増加。ロボット手術機も購入。医療スタッフの増員により施設の狭隘化などで永澤前病院長は建て替えを要望されていました。病院収入が増加していたのでしょうか？

２月21日（金）市議会例会の冒頭で、福岡市長は、建設を一時立ち止まり事業の再構築を検討せざるを得ないと表明。総事業費は概算で250億円だったが、工事費だけで40～50億円の増額予想。また、**2024年度病院の事業収支は、物価高や人件費上昇を受け、４億2,800万円の赤字を予測。**建て替えを進めても採算の見通しが立たないことが問題となったとのこと。

４月１日付で第９代市立三次中央病院　病院

長に立本直邦先生が就任されました。平成11年に外科医として来られて26年たち中央病院育ちと言える生え抜きの温厚な先生です。就任のご挨拶によると、現在医師数88名、看護師309名を含め総職員数587名だそうです。病院運営に当たっては、①安心・安全な医療の提供　②健全な病院運営を継続　③病院建て替え計画の遂行　近々の最低限の責務と考えております。これからの病院運営においても、思うようにいかないことも多々あると思います。病院も柔軟な変化を求められる時代になっております。課題も山積であることは重々承知いたしております。オール市立三次中央病院職員で立ち向かってまいる覚悟であります。と、力強く病院誌“花みずき”で述べられております。

思うところ、公立病院が黒字経営に補助金や支援金なしにできるものでしょうか？看護師に退職されることでは、多くの医師がいてもその力が発揮できそうにありません。広島駅北口にできる新病院に医師が吸い寄せられ減少する可能性もあります。

新看護部長の佐藤幸江さんは、

一方、看護師の人材不足は慢性化しています。当院でも、特に夜勤ができる看護師が少なくなっており、個々の看護師に係る負担が大きくなっています。質の高い看護を提供するためには、看護師がいきいきと働くことができる環境づくりが必要です。ＡＩの導入やタスクシフト・タスクシェア（多職種への業務移管・共同化）による業務の効率化、ワークライフバランスの推進やキャリアアップ支援などにより、個々の看護師がこの病院で働き続けたい、と思えるような職場づくりにも取り組んでまいります。と、書かれています。

難しい言葉が並んでいますが、トップとして大切なことは、看護業務に専念できるとともに、それぞれが多様な家庭環境や人間関係・人生を持っていると、多くの看護師等が把握し理解・共感できるような職場に余裕を作ることと思います。大いに期待しましょう。

（幻になってしまったＢ社・山下設計案）

市役所よりも大きな組織です、地域経済にも大きな貢献をしています。

５月18日に市長さんに直接お会いしたので、中止ですか？と聞くと、中断ですとのお返事。インフレが進むとすれば**遅らせるメリットは少ないでしょう**。建て替えが必要ならば、できる計画を立てるべきでしょう。

５月13日の市長記者会見を19日にピオネットで見ました。何と**建て替えの進捗状況を記者から質問されていました**。残念ながら、中国新聞には報道されず。「病院側との協議の中で指示をしているのは、経営状況について自助努力ができる所はしっかり進めていく。自助努力の方と診療報酬改定の要望を全国市長会へ上げていく。建て替えは三次市だけの事ではなく広域のエリアにとって非常に重要な事業。あらゆる手段やあらゆる発想の中で検討を重ねていくことが大切。島根県南部や県北（安芸高田市、庄原市）から利用されている実態を踏まえれば、もっと大きな視点の議論が必要。」

広島市、福山市と三次市とで広島県は成り立っていると考えましょう。医療を始め広域の住民の皆さんの安心と安全のためになることを、広島県と国で考えることが大切です。

広域で考えると言えば、**来ると考えられている地震**。５月11日日曜日朝10時過ぎからＮＨＫの「みんなの防災」という番組で、しきりに南海トラフ地震の事を啓蒙されていました。

必ず来ると思い、対策を考えてください。

名古屋大学　福和（ふくわ）伸夫名誉教授の言葉。

2025年版　南海トラフ地震の被害想定を国が策定し、４月17日に公表されていました。

2013年想定に比べ**死亡者数**は2万5000人減るも**29.8万人**。災害関連死を想定し2.6～5.2万人。**被害総額**は237兆円から物価上昇分を入れて**292兆円**に。**避難者は1230万人**。
広島県でも沿岸部を中心に震度6強の地震発生、死者数2200人、避難者数34万人と大きい。インフレや物価上昇で被害額は毎年増加しそうです。

最大でＭ９クラスで、震度７を静岡県から宮崎県にかけて10県で想定。「何度もこの地震に見舞われています。ほとんどの場合次の時代は**より良い時代を作っている。次の世代にこの素晴らしい国をバトンタッチするためにも本気になって頑張る**、そのきっかけにしていただけると思っています。」と福和先生。

三次市は最大震度６弱以下でしょうか？災害発生時の被災地支援の拠点都市に十分なれそうです。高速道路や道路網があり、兵庫・岡山から山口県まで支援できそう。被災者を受け入れるためにも**災害支援もできる総合病院が必要**。総理の肝いりで始められている**防災庁の現場での拠点都市などに**三次市は立候補されていませんか！市長さんにお話したことがありましたが、お返事はいただけず。

出先機関にどれだけの人員が集められてくるか？**三次市の人口が、毎年900人ほどの減少**になってきました。外部からまとまった人数の増加ができれば有難いですね。

中公新書2024年11月発行　地方消滅２を読みました。三次市の20歳から39歳までの若年女性の人口は2050年には2,276人となり2020年の3,983人に比べ42.9％減少。総人口は33,901人と書かれていました。

一方、少子高齢化と言われて久しいが高齢者も減少し、その高齢者を介護していた60代も自分の将来を考えて転出するとさらに人口減少！

どうすれば良いのでしょうか？安心して生活のできる､楽しみのある三次にすることが大切。県や広島市などの広域診療体制で支援をしてもらいながら、効率的な病棟病室経営を考える時代かも知れません。

250床が無理ならば200床で、看護スタッフにゆとりのある看護体制を構築して無駄をなくす。病院スタッフの離職を減らす。広島駅北口にできる県の新病院とＪＲやバスで行き来がしやすくなり、特別な治療は新病院に依頼。広島大学はもちろんですが若手医療スタッフを三次にローテーションで続けて来られるようにするとかネットワークを結ぶのも必要となりそう。開業医の先生方も後期高齢者になられてきています。頼られるのは良いことでしょうか？どうにかして身近な医療を継続できるようにできないでしょうか。

禁煙をしようとしてもなかなかできません。禁煙内服治療薬が世界から消えて使えなくなって、もう10年近くになります。禁煙指導に取り組まれている先生は奮闘されています。最初からタバコを吸わなければ良かったと、タバコで苦しめられた人からお聞きします。

もともと日本にはタバコは無かったのじゃ。
現在創作している禁煙紙芝居のなかのひとコマ。おなじみの稲生（いのう）物怪物語の主人公平太郎を諭す山本（さんもと）五郎左衛門が登場し物語の始まり。

軽妙に物語をすすめようと、もののけ会館である人と落ち合ってアイデアを出し合うという想定でした。上手に場面をつなげられました。

３月26日（水）18時台のＮＨＫお好みワイドひろしまという番組の“みっけ”というコーナーで長年紙芝居を作り続ける三次市の男性・行政豊彦さんが紹介されました。最近取り組んでいる作品として禁煙・受動喫煙防止紙芝居の

取り組みを紹介していただきました。**来年10月24・25日に広島県医師会館をメインに日本禁煙学会学術総会が開催されます**。三次地区医師会から紙芝居を使ってタバコを吸わない大人になるように呼び掛ける準備をしていますとアピールしました。

８年前に**“ジョイのおねがい”**という紙芝居を行政さんに作ってもらっています。ジョイという犬が、奥さんの妊娠を機に飼い主がタバコを止めて喜ぶという内容で世界禁煙デーや三次きんさい祭で上演し、禁煙や受動喫煙防止を呼びかけました。

小学校の薬物乱用防止教室の時間などで新作の紙芝居を活用してタバコ・ニコチン防止活動を開きたいと考えております。

５月26日の中国新聞22面の下段に小さい見出しで【全面禁煙が一転　会場内に喫煙所】万博　「理念に逆行」批判も

大阪万博会場に全面禁煙としていた万博協会が、一転して喫煙所の設置を決めた。来場者や喫煙者のスタッフらのニーズを考慮する必要があると判断したと。現在東側ゲートに近い会場外に２か所あるが、会場内の西側エリアなどに喫煙所を２か所新設する。**「『いのち輝く未来社会のデザイン』というテーマ**に完全に逆行している。公の場では吸わないのが当たり前の社会になっている。万博は全面禁煙がベストだ」と、日本禁煙学会の渡辺文学理事は訴える。

その通りですね、もともと会場の入り口近くに喫煙所を設けているのも問題にならないか？喫煙した後は、**45分間ほどサードハンドスモーク（３次喫煙）**と言われる有害物質をタバコの煙を浴びた髪の毛や体、衣服からまき散らしています。吐く息からも当然悪いものが出ています。喫煙したばかりの職員はエレベーターには乗らせないとした市役所もあります。

観光地での喫煙所も問題です。例えば、京都左京区の南禅寺。今月国宝に指定された琵琶湖疎水の水が引かれている有名な水路閣があります。その南禅寺中門の右手に昔ながらの灰皿だけが置いてある喫煙所がありビックリさせられました。タクシー乗り場になってもいます。顔を背けている観光客もいます。大好きなお寺ですので残念です。何とかしてください。

もともとタバコはありませんでした。こんなに人を苦しめているタバコでニコチン依存症にされないように、皆さまのお力でタバコをどんどん減らしていきましょう。

心配していた戦争が始まりました。6月13日（金）未明にイスラエルが、イランを空爆、戦闘機200機でと。防空システムを破壊して攻撃し被害を出さずに帰還した模様。革命防衛隊司令官など幹部をミサイルで暗殺？イランも無人機や弾道ミサイルで反撃。アメリカ軍との防空システムをイスラエルは使い、かなり被害を減らしていると報道されています。アケメネス朝ペルシャの時代から続くイランです。オリエント文化圏同士の戦いは多いのですが、21世紀の時代です。人類の生存を脅かすような愚かな戦いは即刻止めてほしい。核物質が使われないことを祈ります。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　循環器内科

須澤　　仁

この度、市立三次中央病院に赴任いたしました、循環器内科 須澤 仁と申します。

わたくしは、平成22年に広島大学を卒業し、JA尾道総合病院で初期研修を行い、広島市立広島市民病院、市立三次中央病院、広島大学大学院、マツダ病院での勤務を経て参りました。

2014年～2016年にも市立三次中央病院で勤務しておりましたが、約9年ぶりに戻ってくることとなりました。当時は30歳前後でしたが、気が付けば40歳の子持ちとなりました。

久々に街中を歩いてみますと、三次駅が新しくなったり、無印良品ができていたりなど様変わりしていることに驚かされる一方で、以前によく通っていた飲食店も多く残っており、懐かしく感じております。また、みよしあそびの王国という広大な公園や、三次市の子育てについての手厚い支援サービスなどがあり、改めて三次市の魅力を感じている次第です。自宅近くも緑が多く、春先にはたくさんのつくしやタンポポが生えており、子供らも喜んでおりました。

私は超音波検査が専門ではありますが、循環器内科全般をはじめとして診療に当たらせていただきます。三次地区をはじめとした県北での医療に少しでも貢献できれば幸いです。まだまだ至らぬ点もありご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

市立三次中央病院　循環器内科

豊福　　守

縁あって、和歌山の日赤医療センター循環器内科で13年ほど働いておりました。この度、恩師の京大　木村　剛　元教授の退官もあって、広島に戻ってまいりました。広島大学循環器内科の中野教授には、備北の若い先生方を教えてくれと承っています。

県北に住むのは初めてですが、三次は水が豊かな美しい街で、和歌山で始めた趣味の長距離走やロードバイクを堪能しています。

地区の先生方には備北医療圏の中核病院として安心して患者さまをご紹介いただけるよう尽力致します。よろしくお願い申し上げます。

卒業年　1991年
専門分野　循環器一般

会　員　紹　介

市立三次中央病院　循環器内科

丸谷　凌平

2025年４月より市立三次中央病院循環器内科に赴任しました丸谷凌平と申します。

広島大学を卒業し、広島市立北部医療センターでの初期研修を経て、市立三次中央病院で勤務させていただくことになりました。循環器内科医として１年目のこの年を三次の地で皆様にご指導いただけることに大変感謝しています。生まれは安佐北区可部で出身校は安佐北高校であるため、広島県の中でも北部寄りではあったのですが、三次に来る機会はそれほど多くありませんでした。そのため、新しい土地・新しい環境の中で初めての経験を積むことができることに楽しみと緊張感でいっぱいではありましたが、三次市の優しい地域の方や優しいスタッフに恵まれていることに大変感謝しています。私は高校生の頃より地域医療に貢献できることを夢見ており、このように微力ながらも地域に貢献できますことを心より楽しみにしております。

カテーテル治療や心臓超音波検査に大変興味を持って循環器内科医を目指しましたが、まだまだ至らない点も多々あるかと存じます。三次の住民の方々や医療に貢献できるよう精進いたしますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

市立三次中央病院　消化器内科

伊藤　大起

このたび市立三次中央病院で勤務させていただくことになりました、消化器内科の伊藤大起と申します。今春初めて県北の地域に住み、消化器内科医としての第一歩を踏み出しました。

地域の皆さまに安心していただける医療を提供できるよう努力してまいります。

不慣れなことが多く自分にできることはまだ限られておりますが、皆様のご指導を仰ぎながら、日々学び、技術・知識ともに着実に力をつけていきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　腎臓内科

森本　啓介

平素より大変お世話になっております。2025年４月より市立三次中央病院腎臓内科に赴任いたしました、森本啓介と申します。2018年度にも１年ほど当院で勤務しておりましたが、再び三次地区の医療に携わることができうれしく思います。

腎臓内科医として慢性腎臓病や透析患者の管理・治療に尽力するのはもちろん、二次救急医療機関の勤務医として地域の救急医療にもしっかりと貢献できればと思っております。

日々の診療の中で、みなさまにはいろいろとご協力をお願いし、多々ご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

市立三次中央病院　糖尿病・代謝内分泌内科

佐川　純司

令和７年４月１日より、市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科に赴任いたしました、佐川純司と申します。

2013年に広島大学を卒業し、広島大学病院で初期研修を修了した後、同病院の内分泌糖尿病内科へ入局いたしました。その後、呉医療センター中国がんセンターで３年間、広島大学病院では７年間、内分泌糖尿病内科医として勤務してまいりました。

学生時代に三次を何度か訪れたことはありましたが、勤務するのは今回が初めてであり、不安もありました。しかし、備北地域の先生方や病院のスタッフ・職員の皆さまに温かく迎えていただき、日々支えていただいているおかげで、少しずつではありますが、順調に業務を進めることができております。これまで地域の糖尿病・内分泌診療を長年にわたり支えてこられた前任の先生方が築かれた診療体制を、しっかりと引き継ぎ、患者さんに安心していただける医療を提供できるよう尽力してまいります。

至らぬ点も多々あるかと存じますが、備北地域の医療に貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　糖尿病・代謝内分泌内科
丸井　夏実

令和７年４月より市立三次中央病院に赴任しました丸井夏実と申します。令和４年に広島大学を卒業後、JA 広島総合病院と広島大学病院のたすき掛け研修コースで初期研修を終え、専攻医１年目を広島大学病院で勤務いたしました。

専攻医２年目として当院に赴任させていただき、専攻医１年目とは全く異なる環境での救急外来診療、外来、病棟管理に不安はありましたが、上級医、各科の先生方にご指導いただき、充実した日々を送っております。

地域病院としての当院に赴任し、広島大学のふるさと枠としての役割を果たせるよう、今後とも日々尽力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　小児科
長谷川　秋

令和７年４月より、市立三次中央病院の小児科へ赴任いたしました長谷川（はせがわ）秋（あきら）と申します。広島学院高校を卒業後、令和２年に広島大学を卒業し、広島大学病院、JR 広島病院、中国労災病院にて研鑽を積んでまいりました。この度ご縁をいただき、三次市に勤務する運びとなりました。

広島県出身ではございますが、これまで三次市を訪れる機会はなく、今回が初めての滞在となります。実際に生活を始めてみて、豊かな自然に囲まれた環境、そして地域の皆様の温かなお人柄に触れ、日々感動しております。赴任して間もないものの、自然豊かなこの地で健やかに育つ子どもたちの姿を目にし、小児科医としての使命を改めて強く実感しております。

私は幼い頃から、美しいものや可愛らしいものに惹かれ、高校・大学時代は美術部に所属しておりました。油絵から鉛筆画まで幅広く取り組みましたが、特に透明水彩画を好んで描いておりました。現在は忙しさもあり、絵を描く機会はほとんどなくなってしまいましたが、美術館を訪れることは今でも楽しみのひとつです。いつか自作の絵を病院の壁に飾ることを将来の野望にしています。

小児科医療は、病気の診療のみならず、子どもたちの成長や発達を長期的に見守り、ご家族の思いに寄り添う姿勢が求められる分野だと考えています。そのため、予防医療や発達支援にも力を注ぎ、保護者の皆様と信頼関係を築きながら、地域に根差した医療を提供できるよう努めてまいります。

三次地区医師会の皆様には、今後、地域の医療連携において多大なお力添えをいただくことになると存じます。一日も早く地域医療の一端を担えるよう励んでまいりますので、ご指導・ご助言を賜れますと幸甚に存じます。

新参者ではございますが、地域の皆様の信頼にお応えできるよう、誠心誠意努力してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　泌尿器科
神明　俊輔

三次中央病院地区先生方におかれましては平素より泌尿器科への格別のご配慮を賜り心より感謝申し上げます。令和７年４月より市立三次中央病院に赴任しました泌尿器科の神明俊輔と申します。

私は平成 15 年に大分医科大学（現大分大学医学部）を卒業後、広島大学泌尿器科で研修を行い広島西医療センター、たかの橋中央病院、呉医療センター、中津第一病院で勤務し、学位取得後は広島大学泌尿器科での勤務後に広島西医療センター、県立広島病院を経て市立三次中央病院に赴任しました。

これまで多くの先生方に指導をいただき、腹腔鏡手術やロボット手術、低侵襲結石治療を行ってきたことが私の臨床の基盤となっています。当院では国産手術支援ロボット hinotori が導入され、令和７年４月 23 日からロボット支援前立腺全摘術を開始しました。これまでの開腹手術や腹腔鏡手術に加えロボット手術や低侵襲結石治療の選択肢が増えたことで、より患者さんのニーズに沿った医療が提供できると考えております。しかしながら実際に手術を行うのは医師であり、より侵襲が低く安全性の高い手術を目指して日々努力しております。また親切・丁寧な分かりやすい言葉で患者さんに寄り添える医療の提供を目指していきます。

前立腺癌、尿路結石だけではなく尿路の疾患でお困りの患者様がございましたら迅速に対応させていただきますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　放射線治療科

亀岡　　翼

2025年4月1日付で、市立三次中央病院放射線治療科に赴任しました亀岡（かめおか）　翼（つばさ）と申します。私は2017年に広島大学を卒業後、広島大学病院で初期研修をおこない、後期研修（放射線プログラム）を広島大学病院、呉医療センター・中国がんセンター、広島がん高精度放射線治療センターでおこない、日本専門医機構認定放射線科専門医を取得しました。その後、高知大学医学部附属病院、広島市立広島市民病院で診療に従事し、昨年に日本専門医機構のサブスペシャリティ領域である放射線治療専門医を取得しました。放射線治療専門医としての第一歩を市立三次中央病院で歩み出せたことを大変嬉しく思っております。

さて、当院における現状の課題として、高精度放射線治療技術である強度変調放射線治療（IMRT）が実施できていないことが挙げられます。IMRTを実施する上での施設基準である「放射線治療を専ら担当する常勤の医師が２名以上配置」との条件が満たせていないことが主な理由ですので、私個人でどうにかできるものでは正直ありません。ただ、当院でも実施している従来の放射線治療技術（3次元原体照射：3D-CRT）でも十分に根治を目指せる領域も多いですので、ご紹介いただきました患者様については、必要な情報提供はしたうえで、なるべく当院での治療にご満足いただけるように努めてまいります。もちろん、IMRTをご希望された方については関連機関にご紹介させていただきます。

備北地区の癌診療に少しでも貢献できるよう日々精進してまいります。至らない点が多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　消化器外科
石田　駿斗

このたび市立三次中央病院外科に着任いたしました、石田駿斗と申します。

島根県松江市出身で、地元の高校を卒業後、島根大学医学部を経て、広島県呉市の病院で初期臨床研修を行いました。学生の頃より消化器外科に興味があり、研修中にはその幅広さと奥深さに魅了され、以来、広島県内で外科医として研鑽を積んでまいりました。

前勤務先では専攻医として、基本的な知識・技術を身につけるとともに、高難度の悪性腫瘍手術にもチームの一員として多数携わる機会を得ました。今年度からは、一人の外科医として責任を果たす立場となり、気を引き締めて日々の診療にあたっております。これまでの経験を活かし、備北地域の皆さま、そして医療関係者の皆さまに少しでも貢献できればと考えております。

現在、外科医志望者の減少によりマンパワー不足が深刻化する一方で、働き方改革も求められており、非常に難しい時代にあります。そのなかで、医療の質を保ちながら、持続可能で働きやすい職場づくりを目指し、上司・同僚・医療スタッフとの連携を大切にしていきたいと思っております。

外来診療では、30 分～ 1 時間以上かけて受診される患者様も多く、当院が担う医療圏の広さを実感しております。開業医の先生方との連携も大切にしながら、地域に根差した診療を心がけてまいります。

まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　乳腺外科
鈴木可南子

令和７年４月１日より市立三次中央病院へ赴任いたしました、乳腺外科の鈴木可南子と申します。私は広島県呉市出身で、その後も広島県で学生時代を過ごしました。平成 31 年に広島大学医学部を卒業してから６年が経ちますが、そのうちの５年間を大学病院で勤務しておりました。そのため、久々に環境が変わることに不安もありましたが、先生方を含め病院関係者の皆様にはあたたかく迎えてくださり日々感謝の気持ちでいっぱいです。初めての土地での勤務ですが、皆様の支えを励みに少しずつ環境に慣れながら、自分でできることをひとつひとつ積み重ねていきたいと考えております。

また今年度より大学院へも進学し、研究にも本格的に取り組むこととなりました。化学療法中の副作用と口腔内細菌叢との関連について関心を持っており、診療と研究の両立に挑戦する日々です。研究の成果を診療に還元することができればと考えております。

市立三次中央病院は、診療部間や職種間の垣根も低く、風通しのよさを感じています。また、三次市だけでなく遠方からの患者様も多く、市立三次中央病院は県北の中核病院であることを日々の診療の中で実感しております。

乳腺外科の領域は手術、薬物療法、健診、緩和ケア、遺伝カウンセリングなどさまざまな分野があります。特に薬物療法は進歩が目覚ましく日々知識の update が大変ですが、その分患者様それぞれに最適な治療を提供できる喜びも大きく、やりがいを感じております。「わたしたちは地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します」という病院理念のもと、患者様に寄り添いながら適切な医療を提供できるよう微力ながら努めてまいります。医療者としても一人の人間としても成長できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　脳神経外科

新見　雅志

令和７年４月から市立三次中央病院脳神経外科で勤務させていただいております、新見雅志と申します。令和５年に広島大学を卒業し、広島市立北部医療センター安佐市民病院で初期研修を行い、この度、当院に赴任となりました。

大学時代は陸上競技・マラソン・トレイルランニングと活動しており、みよし運動公園で開催される競技会にも何度も参加していたので、この度縁あって赴任することができ、非常に嬉しい気持ちでいっぱいです。

当院に赴任して約１ヶ月が経過しましたが、不慣れ・不勉強な部分が多く、先生方や周りのスタッフの方々に日々助けていただいている次第です。県北地域の脳神経救急の砦としての役割を担う当院で少しでも地域の医療に貢献できるよう日々精進して参ります。至らない点も多くございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

市立三次中央病院　研修医

相坂　悠斗

令和７年４月より市立三次中央病院に勤務しております初期研修医の相坂悠斗と申します。広島市出身で、産業医科大学を卒業いたしました。三次での生活はまだ２ヶ月と短いですが、過ごしやすい街だと感じております。

１年目ということもあり、初めての経験や困難に直面することも多々ありますが、上級医の先生方から多くのことを学び、研鑽を積んで参ります。また、様々な機会を活かすことができるよう、自己研鑽に努めなければならないと日々痛感しております。

ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、三次の医療に少しでも貢献できるよう努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　研修医

上野　佑太

令和７年４月より市立三次中央病院に初期臨床研修医として赴任しました、上野佑太と申します。出身は鹿児島県で、中学・高校はラ・サール、大学は広島大学を卒業しました。大学の部活動は霞ジャズ研究会に所属しており、ベースを弾いていました。

三次に来て早１ヶ月が経ち、少しずつ病院内の地理、先生方やコメディカル、スタッフの方々を覚え始め、ようやく働き慣れてきました。生活面では週末に用事が詰まっており、なかなか三次でゆっくり散策などできていませんが、三次は美味しいお店が多いと聞くので今後開拓していこうと思います。

研修医になり未だ学生のころより成長しているのか不安になることがあり、診療等でこれからご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、三次をはじめ県北の医療に貢献できるよう日々自己研鑽していくので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

市立三次中央病院　研修医

加藤　真恵

2025 年４月より市立三次中央病院で初期臨床研修をさせていただくこととなりました、加藤真恵と申します。私は広島市で生まれ育ち、ノートルダム清心高等学校卒業後、愛媛大学に進学してから、この度、広島に帰って参りました。

三次市は幼いころから度々訪れていたこともあり、私にとってはとてもなじみの深い土地です。この地を代表する画家と言えば奥田元宋氏ですが、祖母が昔馴染みであったご縁もあり、奥田元宋美術館には 2006 年の開館当初から幾度となく通っております。

特徴的な赤をふんだんに用いた秋の奥入瀬の風景画は、紅葉と渓流の美しさの中で、季節の移ろいとともに静かな哀愁が響き、心に残っています。休日は、春の新緑に包まれた山々を横目に歩きながら、元宋氏が芸術的感性を育んできた三次の自然を、同じ視点で味わうことができると考えると、秋の到来が待ち遠しく思います。

さて、そんな私ですが、先日初めての当直をむかえました。何ができるでもなく、あたふたとご指導くださる先生の様子をうかがうしかない、不甲斐ない一晩でした。それでも先生方やスタッフの皆様、患者さん方のおかげで、多くの新しい知識や技術を学ぶ喜びを感じております。まだまだ未熟な自分に反省することの多い日々ですが、これから少しでも三次市の医療に貢献できるように一歩一歩成長を重ねていきたいと考えております。至らぬ点も多々あるとは思いますが、どうぞご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いします。

会　員　紹　介

市立三次中央病院　研修医
葉畑　香澄

このたび三次地区で初期研修をさせていただくことになりました、葉畑香澄と申します。

広島市出身で、広島大学医学部を今年３月に卒業致しました。学生時代から地域医療に興味を持っており、住み慣れた土地で暮らす人々の健康と生活を支える医師の姿に感銘を受け、私もそのような存在になりたいと考えるようになりました。

将来的には総合診療科を志望しております。病気だけでなく、患者さんの背景や生活環境、社会的なつながりも含めて診るという、総合診療の幅広さと奥深さに魅力を感じております。また、患者さんやそのご家族と長く関係を築きながら診療にあたる姿勢に、人としての温かさや責任を強く感じ、研鑽を積みたいと決意いたしました。

三次地区には地域医療の最前線で活躍されている先生方が多くいらっしゃり、また自然に囲まれた落ち着いた環境の中で、地域住民の皆さまと密接に関わる医療が行われております。そのような環境で、医師としての第一歩を踏み出せることに、大きな期待と責任、そしてありがたさを感じております。

まだまだ未熟ではございますが、日々の研修の中で一つひとつの経験を大切にし、貪欲に学びを積み重ねてまいります。診察や処置などの医療技術、医学知識はもちろんのこと、患者さんとの信頼関係の築き方や、チーム医療における連携の重要性、さらには地域社会とのつながりまで、幅広く学ばせていただきたいと考えております。

これから多くのことを吸収し、少しずつでも一人前の医師に近づいていけるよう努力してまいります。どうか温かくご指導・ご助言を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

会　員　紹　介

社会福祉法人ともえ会　子鹿医療療育センター　精神科

佐伯　俊成

私こと、広島にて生まれ育ち、昭和60年広島大学を卒業、ここ20年ほどはワインと美食と車を趣味に馬齢を重ね、この令和7年で医師歴40年を数える老骨精神科医であります。

かつて平成25年4月から令和3年9月までの8年半ほど、市立三次中央病院緩和ケア内科に奉職しておりまして、その間、当時同院病院長でいらした私淑する中西敏夫現会長の厚い庇護を得ながら、折に触れ同窓の同輩で当時同院副病院長職にあった立本直邦現病院長の謦咳に接し、当会および庄原市医師会の先生方にも誠に多大なご協力とご指導を賜りつつ、備北地区における在宅緩和ケアの普及と啓発に注力し、300名を超す末期がん患者の在宅看取りに関わらせていただくという、病院勤務医としては稀有な医療修練を積む機会を得ました。

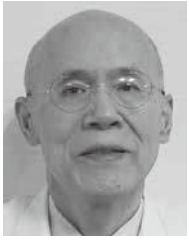
その研鑽を糧に、緩和ケア医としてさらなる高みを目指し、令和3年10月から令和6年10月までの3年余りを山陰地方における緩和ケアの先駆として名高い藤井政雄記念病院（鳥取県倉吉市）に奉職。院内独立型20床の緩和ケア病棟にて末期がん患者の身体/精神症状緩和に専従し、主治医として200名余の穏やかな看取りを完遂できたことで、自らにおいて緩和ケアの集大成を果たしたという実感を得るに至りました。

そしてこの度、同門の先輩である淀川良夫センター長および添田龍彦ともえ会理事長のご高配により、令和6年11月1日付で重度心身障碍者支援施設である子鹿医療療育センターへの入職が叶ったことから、当会再入会のお許しをいただいたという次第であります。

ちなみに市立三次中央病院緩和ケア内科では現在、私の後事を託した高広悠平、高石美樹の両先生が、備北圏域の外来・入院・在宅緩和ケアを担って精励してくれています。

この先もどうか本会の諸先生方から従前と変わらぬご厚情とご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

会　員　紹　介



社会福祉法人ともえ会　子鹿医療療育センター　小児科
大森　啓充

はじめまして。令和７年４月１日から社会福祉法人ともえ会子鹿医療療育センターに勤務させて頂いております、大森啓充（おおもりひろみつ）と申します。

昭和54年３月、和歌山県立医科大学医学部を卒業後、小児科医として一般小児科診療に従事し、昭和61年に、社会福祉法人旭川荘の重症心身障害児施設旭川児童院に勤務したのが障害児医療に携わる最初でした。その後、岡山、広島、愛媛で、小児医療、障害児者医療に携わって参りました。平成20年４月からは、愛媛県立中央病院で、救急小児医療とpost-NICU児のいわゆる“医療的ケア児”の在宅医療支援などに従事し、平成22年４月から、独立行政法人国立病院機構柳井医療センターに小児科医として働かせて頂いておりました。

医療現場では、『心ある医療』ということがよくいわれています。医師と患者・家族との関係は、まさに人間と人間との関係であり、基本的にはひとりの人間として敬い、思い遣って付き合っていくこと、自分を大切にし、自分を愛すると同じぐらいに人を愛することが今一番大事なことなのではないでしょうか。ほんとうにありふれた言葉ではありますが、『優しさと思い遣り』が、人の心の原点のように思います。まだまだ勉強することも多く、障害児（者）医療施設に勤める一人として、これからもこの気持ちを大切に謙虚に頑張っていければと考えております。最後に、私の好きな言葉をいくつか附記しておきます。

三次地区医師会の先生方のご支援ご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

「やさしさは人の心の原動力」（私の座右の銘です）

我有三寶、持而保之。一曰慈。二曰儉。三曰不敢爲天下先。（老子）

正直に　腹を立てずに　撓まず励め（鈴木貫太郎）

「本も読まねばならぬ。考えてもみねばならぬ。併し凡人は働かねばならぬ。
働くとは天然に親しむことである。天然を見つめることである。
かくして天然が見えるようになる」（古武彌四郎）

会　員　紹　介

津島医院

津島　　健

2025年4月1日から津島医院に着任しました津島健と申します。

2009年に岩手医科大学を卒業し、呉共済病院で初期研修を経て広島大学消化器内科に入局しました。後期研修として呉共済病院で3年、その後2014年から2022年広島大学病院、2022年から2025年JA尾道総合病院で勤務してまいりました。消化器内科の中では胆膵グループに所属し、主に胆膵癌、胆管炎、膵炎などの内視鏡治療に携わってきました。

この度、津島医院に勤務し、父と共に三和町での地域医療に従事することとなりました。今後は限られた設備の中で地域のニーズに併せた柔軟な診療をするべく尽力してまいります。また、今まで培った胆膵診療について、県北や近隣でできる限りお手伝いさせていただければと思っています。周辺病院の皆様へあらゆる面でご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。一般外来や往診対応などでご負担を減らせる事があれば連絡いただければ幸いです。重ねてよろしくお願い申し上げます。

三次市国民健康保険作木診療所

石田　直也

今年度から作木診療所に着任した石田直也と申します。

出生から高校卒業までを三次市で育ち、その後に島根大学に進学･卒業し、昨年度まで島根県で研鑽を積んでおりました。以前から山間部の医療については興味を持っており、三次市が私の出身地ということもあって、多くのご縁を頂いたことで、作木での診療に従事する機会を頂くこととなりました。これまでと医療圏域の大きく異なる地域での診療ですが、多くの方々に支えられ、つつがなく日々を過ごすことができています。診療の際には、地元の方の方言を聞くことで、懐かしさとともにどことなく安心感を得て、この地に戻ってきたのだと実感します。

これまでは島根県の大田市立病院という、地域の中核病院で総合診療科として勤務をしていました。重症度や緊急度、診療科を問わず垣根を越えてなんでも診る、ということを基本として日々の診療にあたっておりました。診療科としての特色もあり、自身だけの力では解決できないことも多く、病院内外を問わず各医療スタッフの方々の力をお借りしていたように感じます。今年度はこれまでの経験を活かし、この地の医療に貢献できるよう努力する所存です。

まだまだ若輩であり、不勉強な点や至らない点も多く、諸先生方にはご迷惑をおかけすることや、お力添えを頂くことがあるかと存じます。大変恐縮ではありますが、その際にはどうかご指導ご鞭撻を頂けると幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

会　員　異　動

（入　会）		異動元	異動日	備考
医療法人　津島医院	津　島　　健	（尾道市医師会	令和７年４月１日）	
子鹿医療療育センター	大 森　　啓 充	（柳井医師会	令和７年４月１日）	
三次市国保作木診療所	石 田　　直 也	（島根大学	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	須　澤　　仁	（広島市医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	奥　﨑　　体	（安佐医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	甲斐　佑一郎	（安佐医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	豊　福　　守	（和歌山市医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	伊 藤　　大 起	（安佐医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	新 見　　雅 志	（安佐医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	長 谷 川　　秋	（広島大学医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	森 本　　啓 介	（呉市医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	神 明　　俊 輔	（県立広島病院	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	佐 川　　純 司	（広島大学病院	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	丸 井　　夏 実	（広島大学医師会	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	鈴木　可南子	（広島大学病院	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	竹 田　　雅 彦	（広島大学病院	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	二 宮　　正 彦	（広島大学病院	令和７年４月１日）	
市立三次中央病院	相 坂　　悠 斗	（産業医科大学	令和７年４月１日）	研修医
市立三次中央病院	上 野　　佑 太	（広島大学	令和７年４月１日）	研修医
市立三次中央病院	葉 畑　　香 澄	（広島大学	令和７年４月１日）	研修医
市立三次中央病院	加 藤　　真 恵	（愛媛大学	令和７年４月１日）	研修医

会　員　異　動

（退　会）		異動先	異動日	備考
市立三次中央病院	伊藤林太郎	（広島大学医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	好川　真弘	（広島市医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	天野　愛純香	（広島市医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	小浦　智子	（世羅郡医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	齊藤　皓平	（広島市医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	池永　幸愛	（安芸高田市医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	武藤　毅	（広島市医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	堀江　正和	（安佐医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	久保　瑠那	（広島大学医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	久保　浩介	（広島大学医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	頼島　悠佳	（安芸地区医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	佐久間　良一	（佐伯地区医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	妹尾　淳弘	（安佐医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	稲垣　克哲	（安芸地区医師会	令和７年３月31日）	
市立三次中央病院	妹尾　慧	（広島大学医師会	令和７年３月31日）	
子鹿医療療育センター	安東保海	（	令和７年４月21日）	

PHC
Healthcare with Precision

ハイブリッド型電子カルテシステム
※関連特許出願中

medicom-HRf

Medicom-HRfには医療機器に該当する機能は含まれておりません。

◆ 電子カルテに実績あるメディコムのクラウドサービス！

medicom Cloud

メディコムは、
院内運用と**クラウド**の
ハイブリッド運用サービスを提供！

◆オンライン資格確認もメディコムにお任せ下さい！

パナソニック製カードリーダーで
メディコムだけのオールインワン
方式が可能になります。

PHCメディコム株式会社
広島営業所　〒733-0002 広島県広島市西区楠木町2-8-7
TEL:082-239-3366　FAX:082-238-2279

▶ホームページもご覧ください。
https://www.phchd.com/jp/phcmn/
右記QRコードからもアクセスできます。

医師会事業所現況報告

医療センター入院実績　（R 6.12～R 7. 3）

項　目	12月	1月	2月	3月	合計	平均	備考
新入院患者	83	78	78	73	312	78.0	
内（救急入院）	9	9	5	2	25	6.3	
退院患者	84	77	75	71	307	76.8	
月末在院患者	81	82	82	84	329	82.3	
在院患者延数	2,673	2,734	2,402	2,582	10,391	2,597.8	
平均入院患者数	86.2	88.2	85.8	83.3	344	85.9	
協同指導回数	1	0	10	0	11	2.8	
実働病床利用率	87.1%	89.1%	86.7%	84.1%	-	86.8%	
検査外来患者数	886	901	812	868	3,467	866.8	
その他（ドック）	304	259	279	168	1,010	252.5	

三次市休日夜間急患センター外来実績　（R 6.12～R 7. 3）

市　町	12月	1月	2月	3月	合計	平均	備考
旧三次市	250	308	59	69	686	171.5	
吉舎町	15	13	3	2	33	8.3	
三和町	14	23	4	1	42	10.5	
三良坂町	12	14	9	0	35	8.8	
君田町	8	8	3	3	22	5.5	
布野町	9	7	3	2	21	5.3	
作木町	2	9	1	3	15	3.8	
甲奴町	4	0	1	3	8	2.0	
その他	51	57	11	8	127	31.8	
合　計	365	439	94	91	989	247.3	

医師会日誌　令和６年 12 月１日～令和７年３月 31 日

12.4　• 巴杏 182 号編集委員会
（医師会多目的室）
12.5　• 産業医研修会　（医師会多目的室）
12.8　• 日医かかりつけ医機能研修制度
応用研修会（三次地区）
（医師会多目的室）
12.9　• 第 75 回広島医学会北部支部大会
及び令和６年度合同カンファレンス
演題「下肢スポーツ傷害の診断と
治療」
講師　広島大学病院　病院長
安達伸生　先生
（三次グランドホテル）
12.11　• 執行部会　（医師会多目的室）
12.17　㊐学術講演会
演題「当院での虚血性心疾患に
おける LDL コレステロールの
管理について」
講師　市立三次中央病院
循環器内科　濱本幸愛　先生
（WEB）
12.26　• 備北メディカルネットワーク理事会
（医師会多目的室）
• 三次市休日夜間急患センター
運営協議会　（医師会多目的室）
1.7　• 広島県医師会理事会
（広島県医師会館 /WEB）
1.13　• 広島県医師会新年互礼会
（ANA クラウンプラザホテル 広島）
1.15　• 合同役員会（新年互礼会）（森新）
1.27　• 医事紛争担当理事連絡協議会
（広島県医師会館 /WEB）
1.28　• 市郡地区医師会長会議　（WEB）
1.29　• 急患センター WG
（医師会多目的室）
• 運営委員会　（医師会多目的室）
2.2　• 圏域地対協研修会
（広島県医師会館）
2.4　• ふるさと枠医師配置調整 WG
（広島県医師会館）
2.6　• 産業保健担当理事連絡協議会
（広島県医師会館）
2.12　• 執行部会　（医師会多目的室）
2.13　• 医療と介護が共に学ぶ研修会
（いきいきネット）
（広島県三次庁舎）
• 日本フォーミュラリ学会研修会
（WEB）
2.15　• 多職種連携会議研修会
（ぺぺらホール）
2.20　• 医療安全研修会
（三次地区医療センター）
2.26　• 執行部会　（医師会多目的室）
㊐学術講演会
演題「高血圧診療の
クリニカルイナーシャを
克服するために」
講師　大阪労災病院総長・
大阪大学名誉教授
樂木宏実　先生
（市立三次中央病院 /WEB）
2.27　㊐学術講演会
演題「アミロイド PET による
アルツハイマー病の診断と
レカネマブによる治療」
講師　広島市立北部医療センター
安佐市民病院
脳神経内科　主任部長
山下拓史　先生
（三次市福祉保健センター /WEB）
3.4　• 広島県医療対策協議会
（広島県医師会館）

• 広島県医師会理事会
（広島県医師会館 /WEB）

3.10 • 臨床病理検討会
（庄原赤十字病院　他）

3.12 • 執行部会　（医師会多目的室）

3.13 • 備北地域保健対策協議会　理事会
（三次グランドホテル）

3.14 ㊐学術講演会
演題「脊椎脊髄疾患における
骨粗鬆症治療と手術戦略」
講師　広島市立北部医療センター
安佐市民病院
整形外科・顕微鏡脊椎脊髄
センター部長
古高慎司　先生
（三次グランドホテル /WEB）

3.18 • 広島県医療審議会
保健医療計画部会　（WEB）

3.19 • 理事会
・三次市からの報告事項
・令和７年度三次地区医師会
事業計画及び予算案について　他
（医師会多目的室）

3.25 • 市郡地区医師会長会議
（広島県医師会館 /WEB）

3.26 • 執行部会　（医師会多目的室）

3.27 • 産業医研修会
（三次地区医療センター）

• 備北メディカルネットワーク理事会
（医師会多目的室）

原稿募集

下記要領により公募しますので、ご投稿をお待ちします。原稿締切り日はありません。

記

「論　壇」
2,000 字程度。題目自由。紙上匿名不可。

「私の主張」「私の趣味」
2,000 字程度。紙上匿名不可。但し原稿に氏名の明記のない場合は断わります。

「文芸・芸術作品」
随筆、短歌、俳句、絵画、書、写真など。400 字程度（本号１頁掲載範囲）

「採　否」
制限字数過多あるいは執行部個人や会員個人を誹謗したり、内容が本紙にそぐわない場合、巴杏編集委員会で審査の上、返却することもあります。

※ファックス伝言板にも奮って投稿願います。

編　集　後　記

ロシアのウクライナへの侵略戦争、イスラエルとイランの戦争など、平和になるどころか世界の各地で常に人間同士の殺し合いが起こっています。世界中のほとんどの人が平和を願っているはずなのに、一部の心無い為政者のために、不幸になっている人が沢山います。悲しいことです。そこへ､トランプアメリカ大統領の高関税政策が衝撃をもたらしています。金融市場は動揺し、貿易摩擦は激しさを増しています。世界経済は危機に向かっているようにもみえます。これもまた悲しい出来事かと思います。

さて『巴杏』183号をお届けします。

巻頭言で三次地区医師会副会長の岡崎哲和先生は、令和の米騒動（コメ不足とコメ価格が高騰した影響）から、AIを活用して今日の医療の課題に言及されています。

特別寄稿では市立三次中央病院の新院長になられました立本直邦先生に、市立三次中央病院だよりとして病院の歴史、現状と今後の課題について書いて頂きました。

三次地区医師会会長の中西敏夫先生は、赤字決算で課題となった医療センターと老健あさぎりの問題から広島県の新病院構想まで幅広く書かれています。

毎度おなじみとなった久行敦士先生の随筆、今回は「トランプ後の世界…風車の計」と題して書かれています。続編があるそうです。

そのほか沢山の人に原稿を書いて頂きました。お忙しいなか有難うございました。心よりお礼を申し上げます。

すざわ小児科　須澤　利文

（編集委員）
栗本　清伸　　安藤　　仁
加美川　誠　　須澤　利文
箕岡　康明　　松尾洋一郎
久行　敦士　　高場　敦久
立本　直邦

発　行／一般社団法人 三次地区医師会
発行日／令　和　７　年　７　月
印　刷／株 式 会 社 菁 文 社

令和７年度　三次地区医師会　入社式

桜が咲き誇る４月１日、三次地区医師会の入社式が行われました。

今年度は医療センターにリハビリテーション科の医師１名のほか、看護師４名、理学療法士２名、作業療法士２名、事務員３名、合計 12 名の仲間を迎えることができました。

地域医療を守り、皆様から信頼されるように、これからも新職員とともに努力して参りますので、何卒、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

【巴杏編集委員会】